

西日本支店長会 Branch

2019.3 No.443

Branch
西日本支店長会

2019年3月 No.443

西日本支店長会事務局

〒810-8721 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞社 西日本会事務局内
TEL092(711)5190 FAX092(711)5199 e-mail:shitenchokai@nishinippon-np.jp



「柳川旅情」 撮影：徳永清次（大牟田市在住）

事務局だより Secretariat newsletter

会員異動



ホテルモントレ株式会社
ホテルモントレ ラ・スール福岡
取締役総支配人
杉本 和夫氏



株式会社
シロヤパリガン
福岡支店長
幸村 正浩氏
(熊本県出身)



江崎グリコ株式会社
九州エリア支店
エリア支店長
山本 雅文氏
(福岡県出身)



日本たばこ産業
株式会社
九州支社長
池崎 順二氏
(東京都出身)

前任者 加藤和人氏は全国たばこ販売協
同組合連合会 調査役＝東京都＝へ



JR西日本不動産開発
株式会社
取締役福岡支社長
濱根 祥浩氏
(兵庫県出身)

西日本支店長会5月例会

日 時:5月14日(火) 12時～13時30分
講 師:fabbit代表取締役社長 田中 保成氏
演 題:未定
会 場:天神スカイホール

西日本支店長会・パートナーズクラブ 合同ゴルフ会

日 時:5月25日(土)
8時26分アウト・イン同時スタート
場 所:福岡カンツリー倶楽部 和白コース
福岡市東区上和白1318-1

西日本会2019新年祝賀会

4団体の会員250人が参加



Branch

INDEX

2019

3

No.443

いのちにアリガト⑤①

今日はちょっと違う視線で

昨年十月から家族の都合で父と二人暮らし

最近家事中心にしているけど、ここ数日続けてお仕事へ

仕事から家に帰るとコンビニの海藻サラダとお弁当と王様が!!
なんじゃこの組み合わせ

昨夜から父が「明日は職場からお弁当二個貰う(父と私の分)から夕飯
いらないよ!」と張り切って何回も言っていたので、一品だけ
気持ちばかしの煮物作ってちゃんと夕飯の支度せず仕事に...

そしたら、1週間お弁当の日間違えていたと父「お前帰って来て
何もなかったらいかんから」とお弁当買ってきてくれた

「有り難う～」と言って、流し台にある乾いたお皿を棚にしまっている

父が食べ終わったお皿下げてお皿洗いはんてしたことないのに!
油の付いたお皿を水洗いして、乾いたお皿の上に伏せていく
あっ!アハハ...

精一杯気を使ってお手伝いしてくれているんだらうなあ〜と
思うと何も言えない

父が自分の部屋に行った後にお皿そそくさと洗い直しました(笑)

ゴミ箱みたらカップラーメンのカップが!!
んが〜多分昼御飯カップラーメン食べていたのか...申し訳ない

期間限定、父との二人暮らし
今しかないんやから、出来るだけのことしょ〜っと
気持ちを改めるきっかけになりました

でも、コンビニ弁当は頑張ったけどやっぱり食べられない

なにが言いたかったかという

お互いの気持ちや思いはあるけどうまく伝わるかどうかはわからない

だけでも、暖かい気持ちでの行動は思いが伝わり
ほんわか出来るのだけは間違いないなってことです♥

些細だけど大切な日常

こっちも大事

(大国チオナ)

西日本会2019新年祝賀会 2

例会Report

「最近の金融経済情勢について」

日本銀行 福岡支店長 宮下 俊郎氏 3~6

関西OB会 7~8

九州人奔る 9~10

事務局だより 11

新年の恒例となっている西日本会の祝賀会が1月21日、福岡市博多区のホテルオークラ福岡で開かれました。

「西日本会2019新年祝賀会」に参加したのは、西日本支店長会、パートナーズクラブ、西日本政経懇話会、地域フォーラム(佐世保・玄海)の会員約250人。

会場受付でエプロンを身に付けるユニークな新年祝賀会です。エプロンの色は、西日本支店長会がオレンジ、パートナーズクラブはグリーン、西日本政経懇話会と地域フォーラムはイエロー、そして西日本新聞社とそのグループ会社ホワイト。エプロンの胸のところに企業名と氏名を書いた紙を貼っているのが、初対面でも気軽にあいさつや情報交換ができる好評です。

祝賀会では、まず西日本会を代表して西日本会会長の松尾新吾氏(九州電力特別顧問)があいさつ。

◇

「エプロンに会社名と名前というのはアイデアがいい」と述べた後、「西日本会に所属する四つの団体はそれぞれに歴史があり、それぞれに横の広がりがあるのが魅力。合同例会という形で著名な講師を呼ぶのも素晴らしい」と語りました。

◇

続いて西日本新聞社代表取締役社長長の柴田建哉氏があいさつ。「新聞の生命線は質の高い報道と、地域の役に立つコンテンツを提供すること。地元の価値、魅力を高めることを絶えず考えていく」と強調しました。

◇

そして、パートナーズクラブ会長の芦塚日出美氏(博多座取締役相談役)が乾杯の発声を行い、会場は一気に和やかな雰囲気になりました。

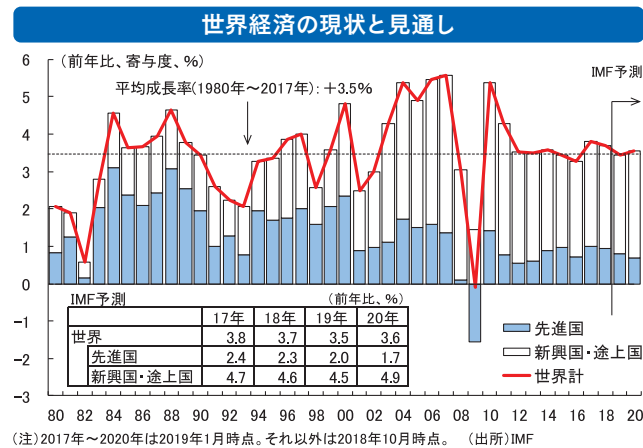
◇

中締めは、博多祝い唄と博多手一本です。

博多祝い唄は、1番が西日本支店長会副会長の前田隆氏(梓設計常務取締役執行役員九州支社長)、2番をパートナーズクラブ副会長の伊藤明氏(日本製紙九州営業支社長)、3番は西日本新聞社取締役営業本部長の大久保昭彦氏。会場の参加者も一緒に歌いました。

博多手一本は西日本支店長会副会長の徳田瑞穂氏(ジュピターテレコム常務執行役員九州山口ブロック長)が入れて、新年祝賀会はお開きとなりました。





日銀は物価安定の目標として2%の物価上昇を達成すべく努力していますが、2%への到達は21年度以降になると見えています。

物価安定の目標達成のために、日銀は、需給ギャップを注視しております。経済全体の需要が供給を上回る状態が続けば物価は少しずつ上がっていくと見ておりますが、15年半ばからはそうした需要が供給を上回る状態が続いています。

ところで、最近の日本経済の潜在成長率は1%を若干下回る水準にあります。物価安定の目標を達成することと合わせて、潜在成長率を徐々に引き上げることが大

最近の金融経済情勢について

2012年12月から始まった日本の景気回復は、今年1月末で74カ月となり戦後最長となりました。しかし、年平均の実質国内総生産(GDP)成長率が1.2%と低いことから、景気拡大の実感が薄いと感じている人が多いようです。

西日本支店長会・パートナーズクラブ2月合同例会の講師は、日本銀行福岡支店長の宮下俊郎氏。「最近の金融経済情勢について」と題して、今回の景気回復を踏まえながら日銀の経済情勢判断、経済活動と物価の現状と見通し、九州・沖縄の経済情勢などを解説されました。(講演日:2019年2月8日)



日本銀行 福岡支店長
みやした とし ろう
宮下 俊郎氏

日本の実質輸出入を地域別に見ると、米国や欧州は大きな変化はありませんが、中国が横ばい傾向になつてきているほか、NIES、ASEANへの輸出が鈍化してきています。財別で明らかに勢いが落ちているのは、スマホ等の電子部材などの情報関連、ロボットや半導体製造装置といった機械類です。これらは九州からアジア各国に輸出されている主力商品であり、輸出の勢いが数量ベースで落ちてきています。

過去に輸出の数量が大きく減つたのは、1995年から約20年間で4回ありました。一つ目が97

設備投資は右肩上がり

世界経済の成長率は、先行き数年間は過去約30年間の平均(3.5%)並みは維持できる見通しとなつていますが、足元は少し下方修正されています。その要因は、米中の貿易問題ですが、それでも平均的な水準の経済成長は達成できる見通しとなつています。

我が国の景気は緩やかに拡大

日銀は3カ月に1回、経済に関する展望レポートを出しており、直近は1月末に景気判断、経済の情勢判断を行いました。

我が国の景気は、所得から支出への前向きの循環メカニズムが働くもとで、緩やかに拡大しています。ただし、緩やかにという形容詞が付いているように、拡大の右肩上がりのテンポは緩やかになっていきます。物価については、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比は、0%台後半になっています。

日本経済の先行きについては、2020年度までの見通し期間を通じて、拡大基調が続くと見えます。基調という表現は、多少の振れが出る可能性がある場合に使用しますが、均してみると拡大する見通しとなつています。この見通しのリスク要因としては、大きく分けると四つあります。一つは海外経済の動向であり、これには米国のマクロ政策運営、保護主義的な動きの帰趨、新興国・資源国経済の動向、英国のEU離脱交渉の展開、産油国などの地政学的リスクもあります。

年のアジア通貨危機、二つ目は2001年の世界的なITバブル崩壊、三つ目は08年のリーマンショック、四つ目は09年のギリシャの債務問題に端を発する欧州債務危機です。

こうした局面では、いくつかの特定の指標に大きな変化が生じます。今回は、今のところそうした指標があまり変化していません。ただし、米中貿易摩擦の影響は、交渉の行方が分かりづらく先行きが読めなため、今後どう推移するか注視する必要があります。

日本の鉱工業生産と企業収益は、均して見ると右肩上がりとなつています。ただ、このところ売上高営業利益率の上がり方が鈍くなつていきます。これは、人件費や原材料費が上がっていること等によるものと見えています。

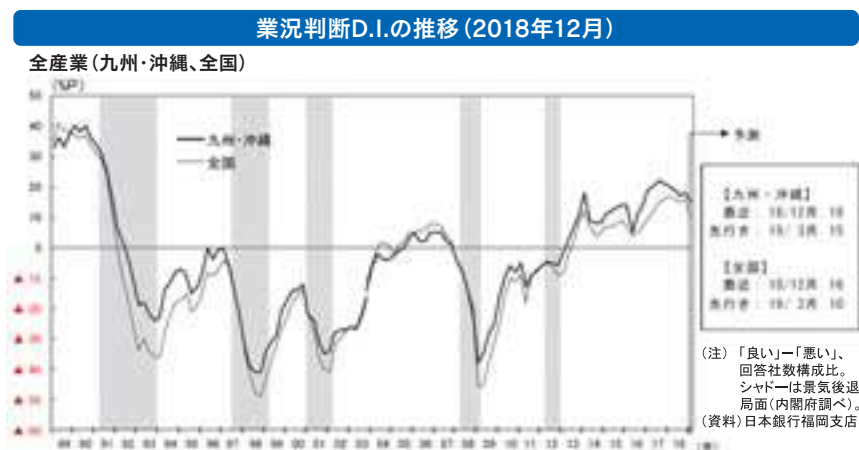
短観の業況判断D.I.を見ると、2018年の水準は高くなつていますが、改善ピッチが少し頭打ちになつてきており、踊り場の状況にあります。

設備投資については、右肩上がりとなつており、非常にしつかりした状態です。短観における設備投資計画では、今年度は発射台が高く、積み上がり方も大きいため、直近までは非常に良いペースで推移

二つ目は消費税率引き上げの影響ですが、さまざまな政策対応がなされているため、大きなマイナスの影響は出ないのではないかと見えています。この他に企業や家計の中長期的な成長期待と、財政の中長期的な持続可能性に対する信頼をリスク要因に挙げています。

2018～20年度にかけての物価見通しを見ると、昨年10月時点と足元を比較すると、19年度の消費者物価指数(除く生鮮食品)の前年度比は、消費税率引き上げと教育無償化政策の影響を除いたべしで、10月時点の+1.4%から+0.9%に下がっています。この要因は原油価格の下落が主因ですが、20年度はこの影響が剥落することを見込んで、1%台半ばの物価上昇見通しとなつています。

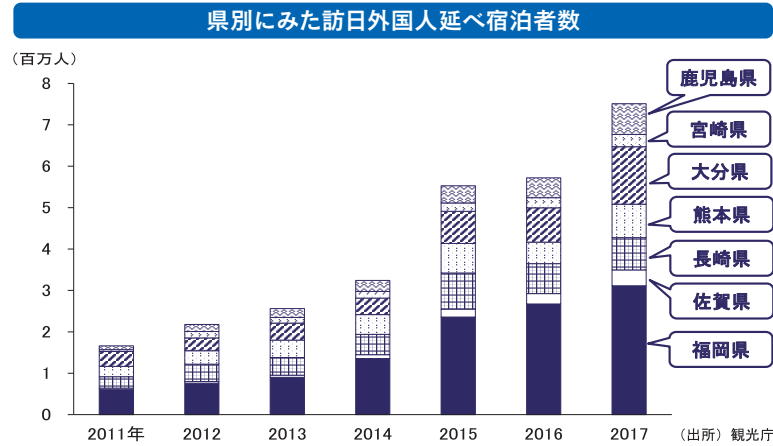
同じ期間の実質GDPの見通しを見ると、18年度は、夏場の西日本豪雨等の自然災害の影響から、10月時点の+1.4%から+0.9%に引き下げられています。19年度は消費税率引き上げへの政策対応の充実等により、10月時点の+0.8%から+0.9%に上がっています。今年度のGDPは自然災害の影響はあるものの、期間を通じて潜在成長率(0%台後半)並みの成長軌道は維持できそうです。



賃金が世代間調整によりフラット化

雇用者所得は、雇用者数が増え

しています。最新の機械やシステムの導入、あるいは自動化、省力化を通じて生産性を上げていくことを経営者の方々が強く意識されて、積極的に投資を行っていることが背景にあるようです。



め、今後注視していきます。

個人消費は振れがありますが、九州は他地域と比べ良い状況です。九州の特徴は、百貨店やスーパーのウエイトが低く、消費を引っ張っているのは、コンビニとドラッグストアということです。個人消費は百貨店とスーパーで判断されることが多いですが、九州では、コンビニとドラッグストアの動向も重要です。これらを含めた売上の動向を見ると、安定的にプラスで推移していることから、個人消

このほか、パートの給料が一般労働者より増えており、2%ぐらい上がっています。

この間、世代間の給料水準を見ると、フラット化してきています。若い層、シニア層の給料が上がって、中年世代の給料が下がっています。実際に一般・所定内給与の変化率は、平均では2.2%ですが、30代後半から50代前半にかけては給与の変化率は平均よりも大きく下回っています。企業から見れば従業員全体に支払う給料をそれほど多く増やさないと、賃金カーブをフラットにしようとする中、中年の給料の上げ幅を削るようになるようです。

世帯毎にみると中年世代でも総所得はそれなりに増えています。が、社会保険料や税金の負担から、可処分所得はほぼ横ばいとなっています。こうした中、40代から50代は、消費性向を引き上げて消費を増やしています。

家計の可処分所得が増えていない中で、全体の消費を増やすには、売り手サイドも様々な工夫をしなければならぬと感じています。

消費者物価指数(CPI)は、生鮮を除いて1%を若干下回る上昇率です。ただし、生鮮に加えエネルギーまで差し引くと0.3%とな

以上を踏まえて、生産を見ると右肩上がりとなっており、全国と比較すると、繰り返しになりますが、九州は全国に比べ景気が良い業種が集積しているため、全国を上回っています。

これからは、今後の九州経済をみる上での留意点について述べます。

インバウンド需要を見ると、外国人がお金を使う総額は、緩やかに右肩上がりとなっており、この傾向はインバウンドが好調な関西よりも勢いがあります。

外国人観光客の宿泊場所は、以前は福岡中心でしたが、最近では北部九州を中心に、大分県、佐賀県、熊本県などに拡がってきています。すなわち、福岡一極集中型から北部九州あるいは九州全域への分散型にインバウンド観光がシフトしています。

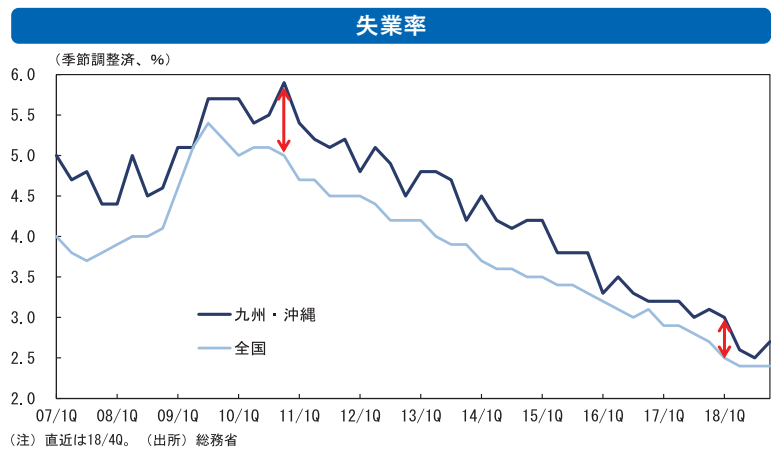
人出不足の問題は、これまで

は、全国と比べて九州は多少ゆとりがありましたが、直近はほとんど全国との差がなくなってきました。これは好調な九州経済の裏返しともいえますが、深刻な問題です。テナントの出店を抑えるとか運輸系の会社で運行本数を減

九州の一部で出てきています。

対応としては賃上げが考えられます。この点、福岡の中堅・中小企業では、賃上げ幅が全国に比べ高くなっています。

人手不足解消には、省力化投資などの対応も重要ですが、九州における製造業の設備投資額は2年連続で前年比約3割増えており、その中には、省力化投資や研究開発投資が多く含まれていると見ています。また、今年度は製造

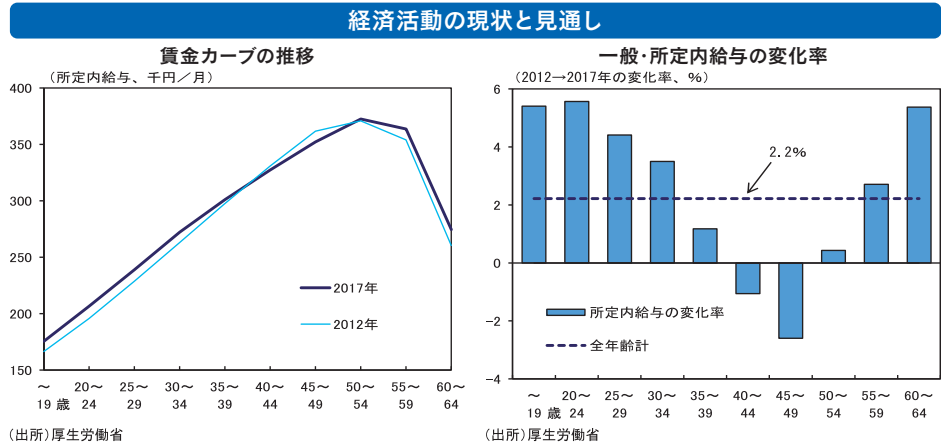


業の中堅企業で2割、中小企業で3割投資を増やしています。投資の波が大企業から中堅・中小企業に及んできていると考えられます。

九州は米中貿易問題などで輸出は厳しい局面があるかもしれませんが、生産性向上の取り組みや、インバウンドに対する息の長いアプローチを組み合わせていくことによって、経済はこれまで通り、全国よりも半歩、或いは一歩進んだ形で発展していくことを確信しております。九州経済がますます発展していくように、日本銀行としてもさまざまな形で情報発信に努めていきます。

日本銀行 福岡支店長
みやした としろう
宮下 俊郎

1964年埼玉県生まれ。88年に早稲田大学法学部卒業後、日本銀行に入行。2012年青森支店長、14年大阪支店副支店長、17年金融機構局上席考査役を経て、18年6月より現職。



このほか、パートの給料が一般労働者より増えており、2%ぐらい上がっています。

この間、世代間の給料水準を見ると、フラット化してきています。若い層、シニア層の給料が上がって、中年世代の給料が下がっています。実際に一般・所定内給与の変化率は、平均では2.2%ですが、30代後半から50代前半にかけては給与の変化率は平均よりも大きく下回っています。企業から見れば従業員全体に支払う給料をそれほど多く増やさないと、賃金カーブをフラットにしようとする中、中年の給料の上げ幅を削るようになるようです。

世帯毎にみると中年世代でも総所得はそれなりに増えています。が、社会保険料や税金の負担から、可処分所得はほぼ横ばいとなっています。こうした中、40代から50代は、消費性向を引き上げて消費を増やしています。

家計の可処分所得が増えていない中で、全体の消費を増やすには、売り手サイドも様々な工夫をしなければならぬと感じています。

消費者物価指数(CPI)は、生鮮を除いて1%を若干下回る上昇率です。ただし、生鮮に加えエネルギーまで差し引くと0.3%とな

つており、勢いが弱い状態になっています。企業の価格判断を見ると、12月短観の結果でも仕入価格判断D・Iが販売価格判断D・Iを大きく上回っています。消費者の財布の紐が堅いのか、売り手側の競合が厳しいのか、要因は色々ありますが、いずれにせよ企業の価格設定姿勢は慎重です。

また、予想物価上昇率はマーケット参加者、経済専門家、企業、家計、どれをとってもほぼ横ばいという状況です。

こうした中で、日銀は名目金利を引き下げ、人々の物価上昇期待を引き上げること、実質金利を引き下げ、投資や消費を促し経済を活性化しようとしています。

もつとも、2%の物価安定をできるだけ早く達成するべく取り組む中で、達成するには時間がかかることが分かりました。物価上昇に対する否定的な姿勢は根強いものがあります。そうした状況においても、日銀としては需要が供給を上回る状態をできるだけ長く続け、それによって物価を上げていきたいと考えています。金融機関やマーケットへの副作用にも配慮しながら粘り強く、できる限り早期に2%の物価安定の目標達成を目指しています。

九州・沖縄の経済情勢は、全国よりも半歩良いと見ています。その要因は、ロボット、半導体製造装置、電子部材、自動車など、日本の中で比較的好調とされる業種の域内ウエイトが高いことです。もう一つは、インバウンド効果が相対的に日本の平均値よりも高いことです。ただし、足元は人手不足や原材料価格の上昇によって改善のペースは少し頭打ち傾向です。

九州はこれまで製造業が経済全体を引っ張ってきましたが、このところはサービス業等の非製造業が経済全体を引っ張っています。

地域別に見ると、観光を中心に景気が良い那覇と、製造・非製造業とも好調な福岡の景気が相対的に良い状況にあります。

輸出も堅調ですが、直近はやや弱めになっています。その要因は、韓国向け輸出がここ半年ほどマイナスとなっていることに加え、中国向けが鈍化していることによるものです。中国向けは今のところプラスですが、直近は数字が落ちてきているように見えるた

九州・沖縄の景気は
全国より良好



西日本支店長会 関西OB会 出席者

氏 名	現職会社名	役 職	現役会員時社名	在職期間
石 坂 芳 人	アズビル(株) ビルシステムカンパニー関西支社	副支社長	アズビル(株) ビルシステムカンパニー九州支店	H25.10～H30.3
上 野 至 大	NPO法人 『ママの働き方応援隊』	会長	西日本電信電話(株) 福岡支店	H4.7～H6.6
奥 田 昭 一	(株)リジェンド・エンジニアリング	取締役	住友電設(株) 九州支店	H9.1～H14.1
押 部 隆 利	TOTO(株)	上席執行役員関西支社長	TOTO(株) 九州支社	H23.4～H26.3
久 米 穂 高	富士電機(株)	常務理事関西支社長	富士電機(株) 九州支社	H20.7～H25.3
高江洲 文 雄	(株)ミライト・テクノロジーズ	相談役	西日本電信電話(株)	H14.5～H18.5
田 中 勝 也	日本コンクリート工業(株) 大阪支店	執行役員西日本管理本部統括	日本コンクリート工業(株) 福岡支店	H27.1～H27.6
田 原 浩	(株)東芝	理事関西支社長	(株)東芝 九州支社	H27.4～H30.3
玉 村 知 史	NDS(株)	代表取締役社長	西日本電信電話(株)	H24.6～H27.6
長谷川 隆 一	(株)竹中工務店 大阪本店	専務執行役員	(株)竹中工務店 九州支店	H23.3～H28.2
松 崎 公 一	鹿島建設(株)	専務執行役員関西支店長	鹿島建設(株) 九州支店	H23.4～H27.3
丸 市 佳 永	三和シャッター工業(株)	中部・関西ビル建材事業部長	三和シャッター工業(株) 九州広域ブロック	H21.4～H28.3
渡 津 弘 己	(株)鴻池組	取締役専務執行役員大阪本店長	(株)鴻池組 九州支店	H24.4～H26.9
柴 田 建 哉	西日本新聞社	代表取締役社長		
大久保 昭 彦	西日本新聞社	取締役 営業本部長		
中 満 昭	西日本新聞社 大阪支社	支社長		
添 田 弘 幸	西日本新聞社 大阪支社	メディアビジネス部次長		
西 山 健 郎	西日本新聞社	西日本会事務局長		
松 本 隆 義	西日本新聞社	西日本政経懇話会事務局長		



西日本支店長会 関西OB会

会長が北川聡一氏(現役時:神戸製鋼所)に



「西日本支店長会関西OB会」が2月20日(水)、大阪市のホテルグランヴィア大阪で開催されました。参加者はOB会員13人、新聞社から6人の19人でした。1年ぶりに再会する方や、今回初めて参加される方もいて、会話が弾みました。

最初に事務局から、現役会員数が過去最多の261社になり活発に活動していることや、昨年10月に本会を設立して40年を迎え、記念祝賀特別例会を開催したこと等、今年度の活動報告がありました。

その後、会を代表して、押部隆利会長(TOTO上席執行役員関西支社長)の挨拶。G20の開催等、関西での近況などを紹介、そして自身の東京への異動により、OB会の会長を北川聡一氏(現役時：神戸製鋼所)*当日欠席に継いでいただと話しました。

続けて、新聞社より柴田建哉社長が挨拶。福岡・九州のホットな話題



を披露した後、押部会長へ記念品を贈呈しました。

そして、竹中工務店専務執行役員長谷川隆一氏の乾杯の発声で、会はキックオフとなりました。

暫くの歓談後、恒例の参加者による近況報告です。各人、関西での仕事や福岡時代の思い出などを、ユーモアたっぷりに披露。会場は和やかな雰囲気にあふれていました。

近況報告の終了後はお楽しみ抽選会。賞品は、福岡の秋の風物詩、宮崎宮の放生会で人気のおはじきとちゃんぽん。抽選箱の引き手は、新聞社の中満大阪支社長。大いに盛り上がりました。

最後は恒例の「博多祝い唄」3番と博多手一本。「博多祝い唄」1番は押部氏、2番は高江洲氏、3番は新聞社大久保営業本部長。そして最後のお役目、押部会長が博多手一本を入れて、見事に締めました。



九州人が、一直線に奔る。
目的のため、がむしゃらに奔走する。
時代を超え、壁を破り、走り抜いた人びと
その軌跡を辿る。

九州帝国大学教授

宮入 慶之助 (1865~1946)



人」でもある。

死に至る寄生虫病

日本住血吸虫病は、恐ろしい寄生虫病だった。水田や川に入つた人間の皮膚から体内に入り(経皮感染)、肝臓など内臓を痛め、力士のように腹が膨れ上がり、太鼓腹になつて死に至る。

福岡、佐賀の筑後川沿岸だけでなく、山梨県・甲府地方、広島県・福山地方を中心に多発した。古くは甲州・武田の軍法書「甲陽軍鑑」に記載されているほか、中国では紀元前の古文書にもこの病気の発生が記されている。

しかし、撲滅方法が見つからなかった。この寄生虫のライフサイクルが解明できなかったためだ。人体に入つたこの寄生虫はさまざまな病状を引き起こしながら肝臓から門脈に移動し、ここで成虫となり、交尾、産卵。卵は糞と共に体外に排泄される。糞尿は田畑に肥料としてまかれ、卵はかえり、ミラシジウム、さらにセルカリアと呼ばれる幼虫となり、「終の棲家」となる宿主(人間など動物)を探し、皮膚から体内に入る。しかし、人間にとりつく幼虫になるまでの中間宿主が分からない。この寄生虫が成長する「仮の宿」を探し出す事が、撲滅の鍵となる。

日本住血吸虫の撲滅に貢献

ミヤイリガイを発見し、患者を救う

巻き貝が中間宿主

カワニナ、タニシなど淡水にすむ生物が片っ端から調べられたが「無罪」であった。九州帝国大学、宮入慶之助教授は研究生・鈴木稔を伴つて、筑後川本流や支流の宝満川などを根気よく調べ歩いた。そんな中、住民から「有毒溝渠」と呼ばれる水路があるという聞き込んだ。現在の鳥栖市酒井西町にそれはあり、早速、調査に入つた。そこで全く新しい種の貝、1^{センチ}足らずの巻き貝の生息を大量に見え、顕微鏡で見ると寄生虫の卵からかえつたミラシジウムがこの貝の体内に入り成長することが分かった。幼虫セルカリアは巻き貝の栄養を食べ、成長し、貝から出て、人体にとりつくことが分かった。1913(大正2)年9月の事だった。

この巻き貝を撲滅させれば、寄生虫は絶滅させることにつながる大発見だった。巻き貝は発

見者の名を取つてミヤイリガイと命名された。全国的な撲滅運動が展開され、撲滅に力を尽くした。中国や東南アジアの国々では、この寄生虫は現在も人々を苦しめている。1983(昭和58)年以降、ミヤイリガイは発見されず、筑後川に安全宣言が出されたのは1990(平成2)年だった。その業績をたたえる顕彰碑が九州大学病院に建てられた。

中国に指導に赴く

日本の成果を見て、撲滅へのアドバイスを求めたのは中国の周恩来首相だった。揚子江沿岸は住血吸虫に感染したおびただしい患者が存在していたからだ。「撲滅の道を日本に学びたい」。その真摯な願いに応えて、多くの医師が中国に指導に赴いた。現在も、中国を含むアジアや、アフリカでミヤイリガイの撲滅の戦いは続いている。

＝敬称略(久保平)＝



宮入 慶之助

宮入通り (福岡市)

九州大学医学部の寄生虫学教室の前は「宮入通り」と名付けられ、顕彰碑には業績が書かれている。「1913年、世界に先駆けて日本住血吸虫の感染を媒介する淡水貝を発見、防圧対策の糸口が出来た」と讃えている。



ゆかりの地

宮入先生学勲碑 (鳥栖市曾根崎町)

ミヤイリガイの発見地・鳥栖市曾根崎町の国道3号線沿いにある基里運動広場に「宮入先生学勲碑」が建っている。長く日本住血吸虫に苦しめられてきた佐賀県民が宮入教授への感謝の気持ちを込め、鍋島佐賀県知事名で建立した。もとは基里小学校の校庭で、かつて筑後川支流に流れ込む溝渠があり、ここでミヤイリガイを発見した。



お詫びと訂正
前号(1月、No.442)「九州人奔る」の11頁、版籍奉還、廃藩置県から2019(平成31)年は150年となる。と記されてありますが、廃藩置県からは148年です。12頁の1869(明治4)年は、1869(明治2)年です。お詫びして訂正いたします。